

専任教員



荒井 迅

中部大学創発学術院教授
専門分野: 力学系、計算トポロジー

研究概要

専門は力学系理論。カオスやフラクタルなどの複雑な現象を理解するための数学的な道具作りを進めている。トポロジーやグラフ理論、計算機援用証明などを駆使して、力学系の大域的な構造を調べるアルゴリズムの開発で成果を挙げてきた。また、計算トポロジーのように先端的な数学理論をセンサー・ネットワークなどの具体的な工学的な問題へ応用する研究も進めている。

経 歴

東京都出身
京都大学理学部卒、理学博士(京都大学)
日本学術振興会特別研究員PD、京都大学助教、さがけ研究員、北海道大学特任助教、同大学准教授を経て、2017年から現職。

主要論文

Z. Arai, On loops in the hyperbolic locus of the complex Hénon map and their monodromies. *Physica D*, 334, 133-140 (2016).

Z. Arai, On hyperbolic plateaus of the Hénon map. *Experimental Mathematics*, 16(2), 181-188 (2007).



松田 一希

中部大学創発学術院准教授
専門分野: 動物生態学・霊長類学

研究概要

東南アジア、アマゾン、アフリカの熱帯林で野生霊長類の生態観察をしている。中でも東南アジアのボルネオ島の森にすむ、テングザルという奇妙な長い鼻を持つサルを観察を長期で行っている。野生霊長類初となる反すう行動をテングザルで発見して注目を集めた。また、ヒト社会の重層化を紐解くモデルとして、テングザルの重層社会のメカニズムを研究している。今もっとも力を入れているのは、テングザルの鼻がなぜ長くなったのかを謎解くことだ。

経 歴

静岡県出身 同志社大学工学部卒
地球環境科学博士(北海道大学)
日本学術振興会特別研究員PD、京都大学霊長類研究所特定助教を経て、2016年から現職。
京都大学野生動物研究センター 特任准教授、
公益財団法人 日本モンキーセンター アドバイザー、マレーシア・サバ大学 客員研究員を兼務。

主な受賞等

日本霊長類学会高島賞(2011)、笹川科学研究奨励賞(2013)、日本生態学会宮地賞(2016)

主要論文

I. Matsuda, et al., Regurgitation and remastication in the foregut-fermenting proboscis monkey (*Nasalis larvatus*). *Biology Letters*, 7(5), 786-789 (2011). doi: 10.1098/rsbl.2011.0197

著書

テングザル一河と生きるサル, 東海大学出版会(2012).